

『この基準に従って進む』

ガラテヤ人への手紙 6:11~16

しかし、私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に
誇りとするものが決してあってはなりません。(14 節)

序]

この朝は、教会総会を越えて最初の礼拝、聖餐式も含まれる。新しい出発の時に必要なことは、まず原点に帰ることである。我らにとって原点とは何か？キリストの十字架である。

今朝のタイトルは 16 節から。「この基準」とは何か？—14 節=キリストの十字架以外に誇りとしなない生き方である。この原点の再確認が、総会を越えた我らにふさわしいことであり、聖餐式に臨む我らに適している。

今朝は、十字架以外に誇りとしなない生き方はどんな生き方を学ぶ。

本]

I 割礼派の人々の主張

パウロが 14 節を強調したのは、当時「この基準」以外のものを押し通そうとした者たちがいたから。彼らについては「割礼を強制する人たち」(12)パウロは彼らのことをパウロは「あなたがたをかき乱す者たち」(1:7)と述べている。彼らも、人は十字架によって救われると言う。しかし、問題は十字架+αが必要だと言ったこと。その「+α」を割礼だと言った。これは「キリストの福音を変えてしまう」教え(1:7)

真の福音とは「律法の行いによってではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められる」(2:16)。我らもパウロと同じく、十字架への信仰によって救われた。もし罪が何たるかを知ったら、自分の罪を償えるほどの行ないが出来るとは思う人はいない。だからこそ、神はキリストを送り、十字架によって救う道を設けて下さった。それを「知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。」(同 16) ゆえに、我らは十字架以外に誇りとしなない生き方を通すのである。我らはこの基準から、生涯離れないお互いでありたい。

*ルターの戦い：中世カトリックの免罪符<十字架のみ 〔記述省略〕

II 十字架以外に誇りとしなない生き方の具体的な内容

①この世の価値観や考え方に死んだ生き方(6:14)—「世界は私に対して、私は世界に対して十字架につけられた」

②キリストへの信仰が愛になって働き出す生き方—「大事なものは新しい創造」(6:14)

新創造」とは何か？「愛によって働く信仰」(5:6) 救いの条件は信仰。が、その信仰は愛という行いになる。

結]

我らは十字架以外に誇りとしなない生き方を貫こう。そして、この十字架への信仰が「愛」というかたちになって働き出だし、その各人の愛によって一致した教会を建て上げなさいと、今年、神から示されたのである。